

令和元年度新座市学校評価システム自己評価・学校関係者評価

学校名	新座市立第三中学校
実施日	令和2年1月21日

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、各教科において「授業の見える化」を図り、生徒の意識的に学ぶ姿勢を向上させるような取り組みを実践している。	A	昨年の本評価3.39から今年は3.56と+0.17。「自己肯定感を高め、主体的に学ぶ生徒の育成」を主題に校内研究に取り組み3年目である。特に授業の中で「見通し」を持たせる学習活動、「振り返り」の学習活動を意図的に行うことに力を入れてきた。校内の授業を巡回して、学習課題を明示していないことがまだあるのが課題である。	A	・「見通し」「振り返り」を重視した授業を展開されている様子が伺える。それが生徒の意欲につながり、どう学力につながっているか検証も必要である。 ・昨年より学校全体が明るい雰囲気である。職員室も同様。
2	学校は、体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を適切に行っている。	A	昨年の本評価3.42から今年は3.49と+0.07。学校教育目標の一節の「自ら学ぶ」生徒の育成をめざし家庭学習を充実させる取組をしている。体験的学習、問題解決的な学習など指導法について語りあう職員が多く見られた。家庭学習時間の不足が公的調査から明らかになっており、この課題に対し、さらに取り組む必要がある。	A	・教師間の情報共有がよく行われていると感じる。 ・学校は体験的な学習や問題解決的な学習を意図的に組み入れ実践していると思います。それを生徒の視点でとらえ、自主的・自発的な学習にどう結びつけているか分析を続けてほしい。 ・廊下に掲示している生徒作品など生徒の興味・関心・自主的・自発的な学習に一役買っている。 ・2年の職場体験学習ははじめて社会にふれる機会が重要である。今後も安全に配慮し継続してほしい。
3	学校は、視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業を行っている。	A	昨年の本評価3.45から今年は3.48と+0.03。教科の授業、総合的な学習の時間、学級活動、道徳の時間、部活動で広く活用が行われている。今年度、タブレットが10台導入され活用が広まってきている。校内で体育館、武道場など活用できる環境になっていないところが課題である。	A	・体育館、武道場などで客観的に自分の姿を見る授業ができると尚よいです。授業での活用がさらに進むことを期待する。 ・いろいろな教科で教育機器を効果的に活用している授業を拝見している。その方法を先生方で共有し、学校全体で取り組めるとよい。これからの生徒はより反応・対応できると考える。 ・大型テレビがうまく活用されている

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	A	昨年の本評価3.55から今年は3.68と+0.13。学校教育目標の職員、生徒の認識率100%をめざし取り組んでいる。十分な学校教育目標への理解のもと、校務分掌の主任が機能し、学校が経営されている。時代に即した校務分掌の見直しを行うことが課題である。	A	・先生方の「チーム三中」の意識の高さを感じる。 ・学校の校務分掌、主任制がうまく機能している。先生方がとてもいきいきしており、協働することで「ワンチーム」の三中を感じる。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	A	昨年の本評価3.40から今年は3.64と+0.24。自己評価シートの作成にあたっては学校教育目標との連鎖をお願いしている。管理職との面談で達成状況を確認し、次年度の計画作成に生かしている。Actionの部分の評価が難しいことが課題である。	A	・管理職との面談で達成状況を確認しているのは若い先生に励みになっていると思う。 ・PDCAサイクルをベースに一人一人の教職員が学校経営に参画する意識を持ち、教育活動をしている印象がある。具体的なアクションを積み上げてください。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	昨年の本評価3.13から今年は3.45と+0.32。危機管理マニュアルが整備され年度当初に確認している。4月に確認しただけだと職員から「危機管理マニュアルを見たことがない」という声もあった。次年度からは各学期ごとに危機管理マニュアルを確認する。三中は黒目川沿いなので大洪水へのシュミレーションを実施するようにする。	B	・危機管理マニュアルを見たことが無いという方がいるのに驚いた。黒目川大洪水シュミレーションは実施して頂きたい。 ・マニュアルは見やすく、わかりやすく、掲示や保管が明確であることが大事。事が起きてからどこを見ればよいのかでは対応が遅れる。小さな事でもその都度確認しておくことも1つの方法である。 ・マニュアルを見たことがないという職員がいる中で、自己評価「A」はどうかと思う。 ・次年度、学期ごとにマニュアルの確認をするのは良い。 ・日中校門を閉めることを励行するとよい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	A	昨年の本評価3.38から今年は3.59と+0.21。教年続いている授業四原則「姿勢・清潔・礼・整頓」が学年差、学級差なく取り組むことができている。昨年もこの欄に書いたが、小学校で身につけている指名されたら返事をする習慣を継続していくことが課題である。	A	・授業の雰囲気が良い。落ち着いて授業を受けている。生徒の評価も、内容についてよい。 ・生徒の表情がいきいきしており授業が落ち着いて行われている。生徒自身もルールを守り、良い環境を意識しているように感じる。 ・全体に非常に落ち着いた環境で生徒に根付いている。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	A	昨年の本評価3.19から今年は3.51と+0.32。各教科の授業で個人、グループでの言語活動を意図的に行っている。言語活動を支える教師の言語環境に乱れが一部にある。授業の場、保護者対応の場での正しい言葉遣いに努めている。	B	・さまざまな状況があると思うが、教師の言語環境の乱れがあるのは改善していただきたい。 ・新聞づくり等言葉にして発表することに多く取り組んでいる。 ・各教科で言語活動の充実をめざし取組をしている。一番の言語環境は教師である。 ・本評価や保護者アンケートから、先生方の言葉遣いに対する意識がもう少し高いといいと思う。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	A	昨年の本評価2.24から今年は3.56と+0.32。全国学力学習状況調査で「先生は理解していない所をわかるまで教えてくれるか」が埼玉県、全国よりも、すぐれている。「家で自ら勉強する」が埼玉県、全国より劣っていて、本校の課題である。	A	・家庭学習が県や全国より劣っている状況をどう改善するか学校・家庭の連携を期待する。 ・先生方の熱意を感じる。家庭学習習慣定着が課題。 ・一人一人に対応していこうという意欲が感じられる。家庭学習のやり方、方法を具体的に教えていただきたい。 ・学力格差は小さくないと感じる。 聞けば教えてくれるが、聞かない(質問しない)生徒の中には取り残されている子もいるように感じる。
10	学校は、英語(英会話)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	A	昨年の本評価3.35から今年は3.41と+0.06。AETの活用、指導法の工夫により「読む」「聞く」「話す」能力は向上している。「書く」学習は、家での学習量が少ない生徒が多く、本校の課題である。 英語加配教員が本年度未配置のままだったことが課題である。	B	次年度は英語加配教員は配置されるのだろうか。 ・英語加配教員の配置をぜひお願いしたい。4月から小学校で英語の授業が始まる。今以上に小中連携が重要になる。英語好きの生徒を育ててください。 ・英語加配教員が未配置の中、先生方が努力されたのだと思うが、自己評価がAでよいのか疑問を感じる。

評価項目「豊かな心の育成」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	A	昨年の本評価3.23から今年は3.40と+0.17。校内で教職員、保護者、その他の来校者へのあいさつの声がとても多く聞くことができる。来訪者からあいさつについて良い評価を受けることが多い。生徒会が行うあいさつ運動は、ハイタッチ、グータッチなどを一緒にに行い、楽しそうに、工夫をして行っている。	A	・気持ちの良いあいさつである。明るい学校の雰囲気が出ている。 ・あいさつは自然でいい感じになってきたと思う。来校者は訪れたタイミングで評価がわかることがある。場に応じた言葉遣いは、やはり教師が範を示したい。 ・校内に入ると明るく大きな声であいさつがある。開かれた学校と感じる。 ・学校はもちろんだが、校外でも進んであいさつする生徒が多い。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	A	昨年の本評価3.36から今年は3.43と+0.07。学校教育目標の一節「心豊かに」を実現するために栽培活動、学級活動、道徳に力を入れ、良い人間関係をつくるように努めている。いじめ調査で早期発見、早期対応に努めている。一部の女子生徒にトラブルが多くそれへの対応が課題である。	A	・様々な活動で豊かな心の育成をしている。生徒間のトラブルが減ることを期待します。 ・学校内の環境は年々整美しされてきていると感じる。スマホ等から起きる見えにくいいじめ等にはこれからもアンテナを高くする必要がある。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	昨年の本評価3.31から今年は3.37と+0.06。生徒アンケートで「規則を守っている」「学校教育目標を知っている」がとても高い評価が出ている。生徒は学校教育目標を意識し、規律意識を高く持ち学校生活を送っている。	B	・生徒は少しずつ規律意識が高くなってきているのがアンケートから読み取れる。むしろ教師の足並みをそろえていきたい。 ・生徒が一斉に下校するときに多くの先生方が正門で指導している様子を見かけます。素晴らしいと思います。 ・本評価や保護者アンケートを見ると努力が必要である。 ・保護者の声で「先生方はとても熱心で感謝している」とある。 ・学校教育目標の生徒の認知度はすばらしい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	A	昨年の本評価3.74から今年は3.71と-0.03。体育の授業で瞬発力向上のため馬跳び、短縄跳びを体育科全体で行っている。部活動ガイドラインを遵守しつつ、部活動の大会で成果が次々と出ている。	A	・屋休みに生徒が楽しそうに体を動かしているのが印象的。 ・部活動の活躍がめざましく体力向上につながっている。部活の活動時間が制限される中でいかに効果を上げるか工夫してください。 ・何年もA評価が続いている。生徒の様子を見るときいきいきしている。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	昨年の本評価3.69から今年は3.76と+0.07。給食だより、給食試食会、地産地消、食品ロスを減らす取組など多岐にわたり展開している。給食委員が調理員にインタビューをして1月の給食週間に生徒集会で発表した。	A	・以前から給食だより等食育を推進していて安心である。保護者へも十分に発信されている。 ・食育など健康教育をいろいろな活動を通して意識を持たせている。食は心の栄養、おいしいと共に生徒の心を育てる。 ・食品ロスの問題は今の子どもに必要なと思うので引き続き指導をお願いします。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	昨年の本評価3.53から今年は3.62と+0.09。11月の彩の国教育週間の時の授業日を学校公開とし4日間公開し、生徒の様子をじっくり見たいという願いにこたえることができた。三中学校区ふれあい連絡協議会を核に町内会、学区内小学校、高校と連携が緊密にとれている。	A	・学校公開の充実とふれ協による地域との連携が現在の落ち着いた三中の学校生活につながっていると思う。 ・4日間の学校公開実施は地域・保護者にとって良かったと思う。生徒の健全育成の観点から、ふれ協、町内会、学区小学校、高校との連携が図られ、多くの目で育てているのは素晴らしい。 ・4日間連続の学校公開ができるのは学校力の高さである。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	昨年の本評価3.43から今年は3.60と+0.17。学校だより、学級だより、部活動だよりなどでの学校の様子を周知に努めている。近隣スーパーで給食の献立表を掲示している。ホームページに写真の掲載を増やして公開している。	A	・近隣のスーパーで給食の献立表掲示は良いアイデアでおもしろい。 ・HPが充実してきている。保護者、地域が知りたいのは、我が子がどんな活動をしているか、安全について等である。更新期間が短くなることを望む。 ・「三中だより」が良い。更新頻度がもう少し上がるとさらに良い。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	A	昨年の本評価3.58から今年は3.67と+0.09。PTA副会長が学校応援団コーディネーターを務め学校応援団活動を推進している。特にボランティア委員会が緑化、バザー、朝の声かけ、お祭り/パトロール、図書館補助、行事手伝いなど活発に展開している。地域の人材をさらに取り入れていくことが課題である。	A	・学校応援団活動は保護者・地域がよく協力している。地域人材には期待したい。 ・学校応援団も活発に活動している。地域の中にはまだまだ多くの人材がおられるのでは。見つける方法、お願いをするシステムを充実させると良いと思う。 ・保護者・地域との連携は十分とれていると思います。